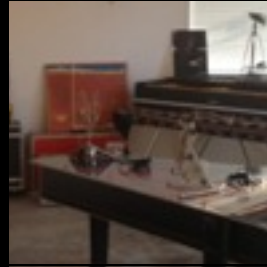
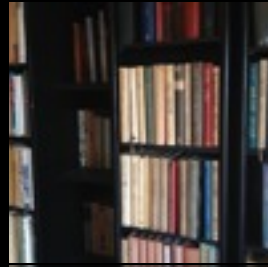


『 FUKAMACHI ism 』 開設のお知らせ



FUKAMACHI ism

art room ~ music & philosophy ~

音楽家 深町 純 の旅立ちから 3年。

生前 彼が「いつかここに 僕のスタジオを作りたい」と語っていた場に

愛用の楽器や描いた絵を置き「深町 純の部屋」として皆さまと共に過ごせる場所ができました。

音楽に流れる精神、美を愛する心、ユーモア...

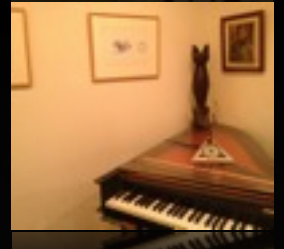
彼が大切にしてきたものを温め、そして発信する場所として

深町 純の息吹が流れるような、そんな空間を育んでいきたいと願っています。

FUKAMACHI ism にお寄り頂き 深町 純の紡いだ日々を感じていただければ幸いです。

2013年 秋

JUN FUKAMACHI Project Office



僕の敬愛するウィトゲンシュタインは、その死の床でこう言ったと伝えられている。

「私の人生は幸せであったと、友人達に言って下さい」。

死にゆく者が、残される者に送る言葉が、遺言というものであるなら

僕にとってこれほど簡素で美しい遺言は、他には考えられない。

幸せな人生を送ったという、彼のその最後の言葉にある真実は

「幸せな人生」というものが可能であることを示している。

これこそ、残された者、あるいは次の世代への、最大の贈り物ではないだろうか。

遺言を書く、(あるいは述べる)ということは、誰かに言葉を託すということであり

それは彼が孤独ではないということである。

同時にその言葉を残された者が、それを意味あるものとして受け止め得ることを

信じているということでもある。

こうした関係を持つという事こそが

「生きること」の一つの意味ではないだろうか。

深町 純

(深町純手記より)

